

## 令和4年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立志茂田中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・第1学年は、日頃から「間違えても構わないからどんどん話す・書くこと」を意識して指導しているため、定期考査での英文作成問題では無回答が少なかった。学習効果測定でも無回答のものはほとんどなく、積極的に話す・書くことに抵抗が少ない。
- ・第2学年は、ほぼすべての分類・区分において、目標値を大きく上回った。入学以来、音声を重視して指導を継続し、「やりとり」を意識したペア練習では実際の場面で自由に会話をつなげられることを最終ゴールとして、今年度も毎回授業の中で扱う活動を継続した結果が表れた。また、「自分の考えや思いを既習の英語で表す」という思考力・判断力・表現力を向上させる活動も継続している。主体的に学習に取り組む姿勢のポイントが高く、生徒が英語学習に意欲的に取り組んでいる様子が考察できる。
- ・第3学年は、声を出してペアで練習することを続けているため、英語を話すことに抵抗が少ない。ALTにも積極的に話しかけるなど機会を見付けて、英語力を伸ばす努力をしている様子が見える。

#### (2) 課題

- ・第1学年は、話す・書くことに抵抗がない分、間違った文法のままであることがとても多い。正しい文で話したり書いたりすることができるように、複雑な文法事項に関しては、様々な文例を通して習得できるようにしていく必要がある。
- ・第2学年は、全分類、区分の中で特に「読むこと」の領域に課題がある。第1学年の段階で、ある程度まとまった英文を読み、内容を理解することが課題であった。今年度は副教材として、「外国人の日本滞在記」という50～70語程度の英文を毎回授業の中で扱う活動として取り入れ、生徒の抵抗感を少しでも取り去ることを狙っている。生徒の「読んでみよう、大体分かる」という前向きな気持ちを育てていきたい。また、語形・語法の理解も課題と考えている。新しい文法の指導に際し、授業では、必ず第1学年の内容に戻って、生徒の理解を確認してから、新しい文法内容を指導するように心がけ、基本的な語形、語法の定着をさせていくことが必要であると考えている。
- ・第3学年は、基本的な文法を理解できていない生徒がいる。文法に従って英文を作るよう指導していく。また、まとまった内容を英語で表現する練習も必要である。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第1学年	すべての観点、領域において平均が目標値を8.1ポイント上回った。特に「書くこと」「思考・判断・表現」が十分に定着している。		

第2学年	すべての観点、領域において平均が目標値を5.2～13.9ポイント上回った。 「読むこと」においては、さらなる向上を目指せる。	すべての観点、領域において目標値を上回った。	/
第3学年	目標値を上回ったが、すべての観点、領域においてさらなる向上を目指せる。	目標値は上回ったが、項目による偏りが見られる。	

(2) 分析 (観点別)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	目標値を上回ってはいるが、文法のさらなる向上が課題である。 書くことに比べて、聞くこと、読むことの領域ではさらなる向上が目指せる。	リスニングの力の向上が課題である。 書くことの領域では、目標値を大きく上回っている。	自分で学習する方法が十分に身に付いていない。
第2学年	目標値を8.9ポイント上回った。 聞くこと、書くことの領域では、目標値を大きく上回っている。 読むことの領域では、さらなる向上のため、まとまった英文を読むことの活動を積極的に取り入れていく。	目標値を11.2ポイント上回った。 特に聞くこと、書くことの領域では、目標値を大きく上回っている。	目標値を13.3ポイント上回った。昨年から重点的に指導している「英語の学習方法」が浸透してきたと考えられる。 各活動、単元、学期ごとの振り返りを重視し、改善点や次の目標を設定させることを通じて、主体的な学びの態度が育成されていると考えられる。
第3学年	目標値を上回っているが、書くことの領域が特に高く、読むこと、書くことの領域ではさらなる向上が目指せる。	目標値を上回った。 特に聞くこと、書くことの領域では、目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っているが、さらに主体的に学習に取り組むように働きかけていく必要がある。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	<p>文法の定着を図るために、毎回授業の中で扱う活動や細かい文法指導が必要である。</p> <p>タブレットを使ったまなびポケットのドリルパークや Google Forms を活用した毎回授業の中で扱う活動などを用いて、家庭でも自分のペースで何度でも練習できる環境を整えていく。</p>	<p>リスニング演習を授業でも積極的に行い、また、自宅でもリスニングの練習ができるよう Google Site を活用して定期考査のリスニング問題をアップロードする。自宅学習で自分のペースで何度でも練習できる環境を整えていく。</p> <p>学習者用デジタル教科書を活用して自宅で教科書の英文や単語の発音を確認できるようにする。</p>	<p>「英語学習の方法」を分かりやすく、繰り返し提示し、自学出来る学習者の育成に努める。</p> <p>タブレットに自宅学習課題を提示し、その成果を指導する教員が評価するだけでなく、授業で生徒達が共有し学び合えるような工夫をしていく。</p>
第2学年	<p>基礎基本を定着させるために、授業における新出文法事項の導入時に、必ず既習内容の確認からスタートする。</p> <p>問題演習には副教材のワークブックを確認する時間をとったり、自宅学習で何回も解き直しをするよう指導する。</p> <p>まなびポケットのドリルパークを活用する。</p>	<p>リスニング演習を授業でも積極的に行う。また、まとまった文を読み内容をとらえる練習を継続する。英問英答の口頭練習も、決まった答えだけではなく、自分の考えを足して答えるように練習していく。</p> <p>Chromebook で学習者用デジタル教科書を活用して自宅で教科書の英文や単語の発音を確認し練習できるようにする。</p>	<p>「英語学習の方法」を分かりやすく、繰り返し提示し、自学出来る学習者の育成に努める。</p> <p>タブレットに自宅学習課題を提示し、その成果を指導する教員が評価するだけでなく、授業で生徒達が共有し学び合えるような工夫をしていく。</p>
第3学年	<p>基礎基本を定着させるための問題演習を増やす。</p> <p>まなびポケットのドリルパークを活用する。</p>	<p>まとまった文を読み内容をとらえる練習を継続する。英問英答の口頭練習も、決まった答えだけではなく、自分の考えを足して答えるように練習していく。</p> <p>分からない表現等を、インターネットを使って調べることによって、表現の幅を広げていく。</p>	<p>家庭学習を充実させるよう働きかけ、教材を示す。</p> <p>まなびポケットのドリルパークや、教科書やワークなどについているQRコードを予習と復習に活用する。</p>